

ユダヤ人と異邦人--一致による奥義

アシェル・イントレータ

2015年1月9日



ローマ 11 章とエペソ 3 章は同じ内容を反対の表現で伝えています。ユダヤ人と異邦人、イスラエルと他の国々との間の奥義(ミステリー)--それはノアとアブラハムの 2 つの契約にまで遡る奥義--を解決するものです。ノアの契約は最初で、国々に対する神のマスタープランについてでした。アブラハムのものはその後に関わされた、イスラエルに対するマスタープランだったので。ノア契約のしるしは虹であり、アブラハム契約のしるしは割礼だったので。

ローマ 11 とエペソ 3 は、イスラエルのメシアニックレムナント(メシアを信じる残された者達)と異邦人の教会に対する神さまのマスタープランについて語っているのです。メシアニックレムナントはイスラエルに対する神さまからの解決であり、異邦人の教会は国々に対する神さまからの解決なのです。ローマ 11 は教会のイスラエルに対する姿勢について、またエペソ 3 はイスラエルの教会に対する姿勢について記しています。

奥義

男女がそれぞれ別物でありながらも、一つのなるように、イスラエルと教会は別物ですが、一つとなります。それこそが奥義なのです。その関係における奥義が双方向に流れます。よってローマ 11 とエペソ 3 の両方は奥義について語っています。

ローマ 11:25--私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。

エペソ 3:3、4、5--この奥義は、啓示によって私に知らされ...メシアの奥義...この奥義は、今は...啓示されていますが、前の時代には...人々に知らされていませんでした。

奥義には通常2つの異なった要素で、1つとなるものが関係しています。Aグループの人たちにとって明白なことが、Bグループの人たちにとっては、奥義として隠されたものである事があり、また、その反対もあります。彼らはそれぞれ異なっているため、お互いにその事を理解していません。双方がひとつとなるためには、AはBを理解し、またBはAを理解する必要があります。お互いに理解し始めるとき、それは啓示となります。Aにとっての奥義が、Bにとっての啓示となり、Bにとっての奥義が、Aにとっての啓示となるのです。

イスラエルは教会にとって奥義で、教会はイスラエルにとって奥義なのです。つまりイスラエルは教会についての啓示が必要であり、教会はイスラエルについての啓示が必要なのです。啓示を得るためには、双方はお互いに謙虚であるべきです。他者の視点を理解するため、啓示には謙虚さが必須なのです。あなた自身は自分の視点を理解していますが、相手はあなたの視点を理解できず、相手は彼ら自身の視点は理解していますがあなたは理解していません。

啓示

ローマ 11 は、異邦人の教会にメシアニックジューレムナントについての啓示が与えられている様子を描いています。エペソ 3 は、メシアニックレムナントに、異邦人の教会の啓示が与えられていることを描写しています。ローマ 11 の教会のためのイスラエルについての啓示は、イスラエルの救いをもたらすのです。

ローマ 11:26--こうして、イスラエルはみな救われる

教会がその満ち満ちた姿となる時、イスラエルについての啓示が与えられ、それにより、今度はイスラエルの救いをもたらします。「こうして」イスラエルはみな救われるのです。イスラエルの救いは、教会が満ち満ちた姿となり、イスラエルの啓示が与えられることによるのです。

同様に、メシアニックレムナントがその満ち満ちた姿となったときには、異邦人の教会についての啓示を得て、神さまの計画通りの教会が完成します。

エペソ 3:10--これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって、

(このエペソ 3:10 の「これは」はローマ 11:26 の「こうして」と同質のもので
す。)

異邦人のエクレシア(教会)は、驚くべき神さまの知恵を示しています。その多色多様性、調和、一致、天的で、栄光に満ちていることにより、そのしるしは虹なのです。一方、メシアが身体をもって生まれ、そして身体をもって再臨することがイスラエルを通して起こることにより、イスラエルのしるしは割礼なのです。

結婚

パウロの啓示は異邦人の可能性についてではありませんでした。ペトロの方が遙かに先に天から降りて来たシーツの幻によってその事を理解していました(使徒 10-11).パウロの啓示は異邦人クリスチャンが巨大な世界規模のからだとなり、イスラエルと同等なパートナーとなることです。

エペソ 3:6---...キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。

初期のユダヤ人信者にとって異邦人が彼らと同等なパートナーとなるということは受け入れ難いことでした。彼らは異邦人がそれ程重要だとは思っていませんでした。彼らは謙虚になって、異邦人の教会の美しさと重要性を理解する必要があったのです。現在の私たちメシアニックジューも同じようになる必要があります。

同様に、教会にとってイスラエルの重要性は理解し難いことです。教会はとても霊的で、同時に数の上で膨大です(黙示録 7:9)。それでも教会の究極的目的はイスラエルに「接ぎ木される」ことです(ローマ 11:17)。イスラエルが最初に来、教会がイスラエルから生まれ、イスラエルと繋がるのです。イスラエルと教会はお互いのために「造られた」のです。

教会が満ち満ちていることは、イスラエルの救いを解放し、イスラエルが満ち満ちていることは教会の目的を解放します。

性的清さに歩む--第 3 のキー



この 4 回シリーズの第 4 回目で、コーディは、ポルノグラフィ中毒と戦うためのインターネットフィルターの重要性について語っています。英語でご覧になるには [こちら](#)！

イスラエルへのフランスからの移民の増加

2014 年イスラエルへのユダヤ人移民が過去 10 年で最多の、帰還者数 26,500 人を記録しました。出国元の国別ではフランスからが最多で、2013 年は 3,293 人だったものが 2014 年は 7 千人の新規移民がありました。

フランスのユダヤ人コミュニティは 50 万人規模です。米国は数は遥かに多く 6 百万人ですが、2014 年における米国からイスラエルへの移民者数は僅か 3,230 人です。

ウクライナが 2 番目で、2014 年にイスラエルへやって来たユダヤ人は 5,105 人でした。

ルピン学術センター、移民・社会融合研究所と共同でフランス人移民について研究しているカリン・アミットは「フランス人移民の増加は、フランスの反ユダヤ主義や経済的側面によるところだけではなく、フランスユダヤ人のイスラエル、シオニズム、ユダヤ主義への深い結びつきにもよっているのです。」と述べました。

定着先の街では、テルアビブ、ネタニヤ、エルサレムがトップ 3 となっています。